

河川を活かした環境教育に関する取組み（子どもの水辺再発見プロジェクト）に関する研究

河川環境管理財団 正会員 ○入江 靖
正会員 山本 雅史

1. はじめに

「川で子ども達が遊ばなくなった」と言われて久しくなるが、近年になり、子ども達の「環境学習・体験活動」の場として川や水辺が見直されつつある。

川は利水をはじめとした生活の基盤であり、独特の自然環境を有し、様々な生物が生きる場所である。また、人々が疲れた心を癒し、活力を取り戻す場でもある。そして人々の交流の場であり、様々な体験を通じた学びの場でもある。川とのふれあいは子どもたちの人格の基礎を培う原体験の場でもある。

このように川の価値が見直されつつある中、子どもたちの河川の利用を促進し、地域における子どもたちの体験活動の充実を図ることを目的として、平成11年度から、文部科学省、国土交通省、環境省の連携施策として、「子どもの水辺再発見プロジェクト」が展開されている。

2. 「子どもの水辺再発見プロジェクト」推進のために

(1) 「子どもの水辺再発見プロジェクト」について

当プロジェクトの実施のために、現地では、河川管理者、教育委員会、自治体、市民団体等が連携して「子どもの水辺協議会」を設置し、「子どもの水辺」を登録するという手続きが義務づけられており、協議会の事務局は上記4者のいずれかが担当することとなっている。この協議会には教育委員会の参加を必須としており、教育関係者にも川や水辺に理解・関心を深めて頂き、より効果的に子ども達を川に近づけるという目的も併せて有している。

(2) 子どもの水辺サポートセンター

「子どもの水辺」に登録されると、上記3省や「子どもの水辺サポートセンター（以下「センター」と言う）」から様々な支援が得られるようになっている。

センターは、「子どもの水辺再発見プロジェクト」

を推進し、子どもの水辺での活動を一層支援するために、平成14年7月に河川環境管理財団内に設置された。センターでは、「子どもの水辺」登録業務の他、登録団体への情報の提供、河川環境学習・体験活動の実施の支援、講習会・各種会議の開催、副読本の提供や資機材の貸し出しなど、子どもの水辺での活動を推進するための支援活動を実施している。

3. 子どもの水辺登録箇所の活動状況

(1) 活動状況について

昨年3月時点での登録団体158団体について、活動状況等に関するアンケートを実施した。その結果、回答数は105団体、活動している団体は59団体（活動率は回答数に対して37%、登録数に対して56%という結果になった。

なお、非回答については、全件補足調査を行った。その結果、非回答については、「事務局の担当者の異動」「協議会が未活動」という理由が多かった。一方、非回答の理由として、「水辺が未整備もしくは計画未策定のため、活動は今後」という回答もあり、全てが非熱心というわけではなかった。

事務局別活動状況を図-1に示す。図から、事務局を市民団体や市町村が担当しているところは活動率が高いが、河川管理者や教育委員会が担当しているところは活動率が低いという傾向が読みとれる。

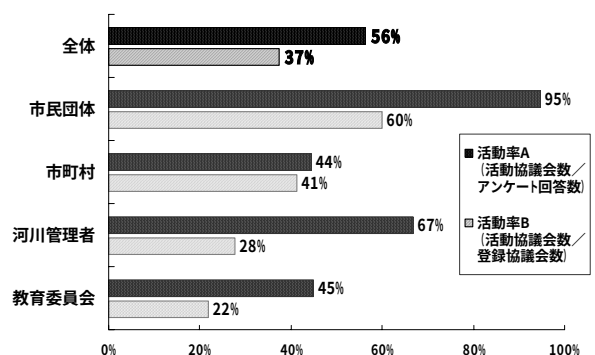


図-1 活動状況(事務局別)

キーワード：河川、環境教育、子どもの水辺

連絡先：（中央区入船 1-9-12、TEL:03-3297-2644、FAX:03-3297-2677）

年間活動回数や、活動時期、活動1回あたり参加人数等についてもアンケートをとったが、上記と同様の傾向となった。

すなわち、市民団体など担当者が数年毎に代わる部署が事務局を担当すると活動は非活発で、河川管理者や教育委員会など人の交替がない、「核」になる人材がいるところが事務局を担当すると活動が活発になるという傾向が確認できる。

（2）活動内容について

現在の活動内容状況を図-2に示す。「生物調査・保全活動」「川の学習活動」「水質調査・清掃活動」が多くなっている。また、今後実施したい活動内容を図-3示す。図-3では、上記3種の活動の他「川の歴史・文化活動」を行いたいという回答が多い。

実際に体ごと川に入るカヌー・ボート等の「スポーツ・レクリエーション活動」は、現在ばかりか今後の希望も少なく、「安全」や安全を確保できる「指導者」が課題になっていると考えられる。

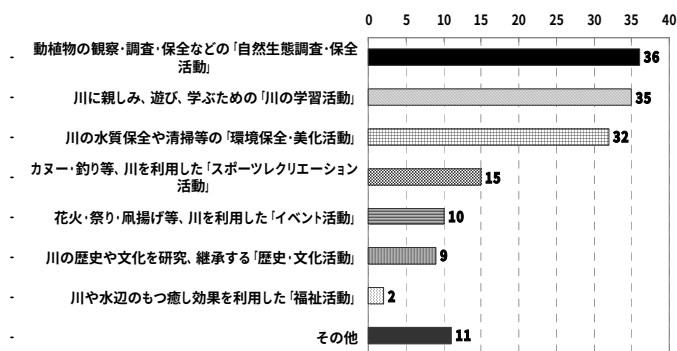


図-2 主な活動内容

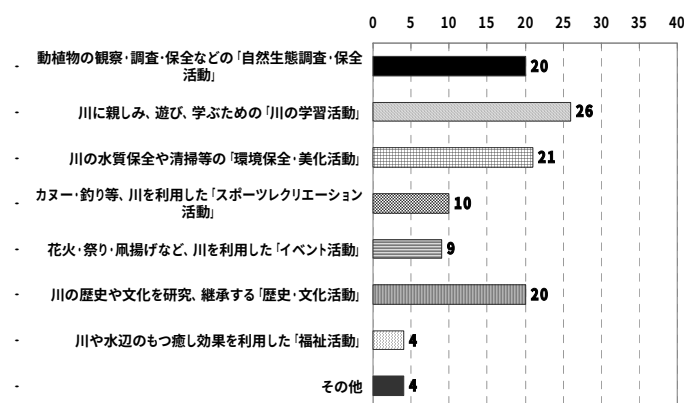


図-3 今後の活動希望

（3）活動における課題・問題点など

活動における課題・問題点を図-4に示す。「資金不足」、「指導者不足」、「安全性の問題」に関する意見が多い。これらの課題が、活動を非活発にする要因とも考えられる。

さらに、上記3省の主催により、平成14～16年にかけて全国9ブロックで開催された「子どもの水辺」地方ブロック会議においてもアンケートを実施した。当会議にも様々な主体の方々が参加し、「子どもの水辺」に関する活動について、意見交換や交流活動を行っている。

アンケートの結果（母数：412件、結果は省略）、活動における課題・問題点としては、人材不足、情報不足、安全性の確保などの意見が多く、前述の「子どもの水辺」のアンケート結果とほぼ同様の結果となった。

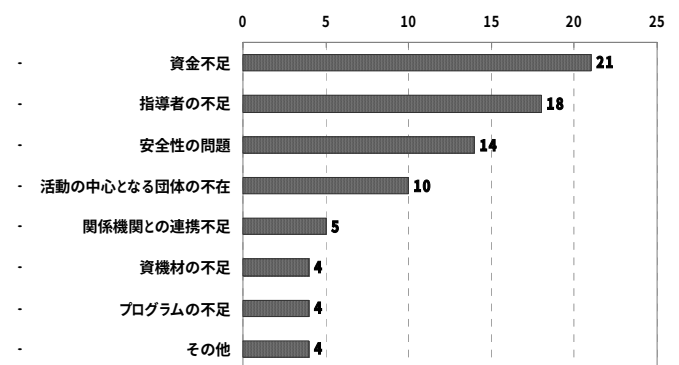


図-4 「子どもの水辺」での活動の課題・問題

5. おわりに

「子どもの水辺」に関する今回の調査で、傾向として言えることとして、「『核』となるような人材がいる」ところでは子どもを川で学び・遊ばせる活動が熱心に行われ、その裏返しとして活発でないところでは、人材や安全性の確保に関する要望が多くなっていると考えられる。

センターでは、全国各地で子ども達が川で元気に遊べる状況を作り出すために、関係省庁とも連携を図り、上記の水辺での活動に関する課題を解決するため、「子どもの水辺」に関する研究機関かつ総合情報コーディネーターとして、川での安全な活動プログラム、指導者育成方策等の検討、人材・指導者育成関連情報等の収集提供システムの構築など必要な支援策を整備・充実させていきたいと考えている。